

子どもの生活習慣づくりの 多様な取り組み

ゲーム・スマホ・ネットとの関わり方の観点から

北海道白老町

家庭教育支援チーム「ぴんぽーん」

コーディネーター 中谷 通恵

1

自己紹介

- 小学校教員時代 「もっとしっかり子育てしてよ！」
- 専業主婦での子育て (ワンオペ・アウエー育児)
「子育て支援を網の目のように張りめぐらす必要」
- 育児サークル・ミニコミ誌発行・イベント
- 子育て支援のNPO法人「お助けネット」設立
- 町から「白老町子育てふれあいセンター」を受託
地域子育て支援拠点事業・ファミリーサポートセンター事業
- 訪問型家庭教育支援チーム「ぴんぽーん」
- 「NPO子どもとメディア公式インストラクター」
「子どもの成長への電子メディアの影響を伝えたい」²

白老町訪問型家庭教育支援チーム

●訪問希望アンケート

全乳幼児健診:直接聞き取りながら情報提供 (小冊子配布)

町内全ての園・小学校にアンケート実施 (2年に1度)

●個人訪問 (年50人程度)

●子育て講座 (全町民対象・年2回)

●小学校・中学校での家庭教育講話

就学時健診・入学説明会で、多くの保護者参集の機会に

●講師派遣 (小・中学校、各種団体)

●支援チーム会議 (年10回程度)

●家庭教育支援便り発行 (年5回、全ての園・小学校等)

3

子どもの発達段階を踏まえた伝え方 ゲーム・スマホ・ネットとの関わり方

●乳幼児の保護者

- ・母親の孤立した中で奮闘している状況に十分配慮
- ・支援(寄り添い)しエンパワメントしてもらい、信頼関係の中で伝える必要

●小中学生の保護者

- ・生活習慣の大切さを関心の高い科学的なデータや資料で
- ・保護者がコントロールする時期であることを強調

●中学生

- ・SNSの難しさ、依存の危険、学習への影響をわかりやすく
- ・自分と友だちの「健康と学習する権利の保障」のために
自主的にルールづくりを

4

自由なネット利用は発達の最終段階

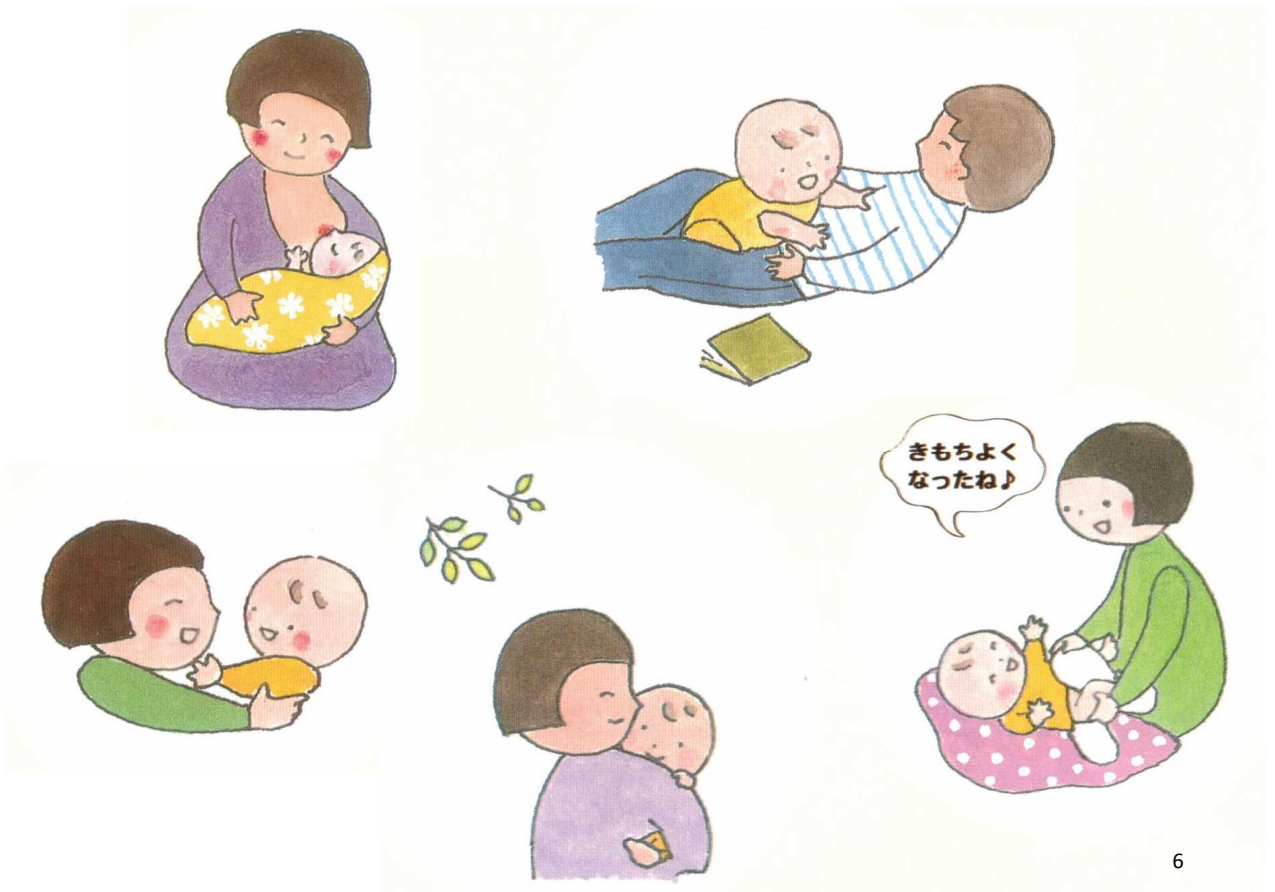
● 社会の広がり

- ① 親子
- ② 家族
- ③ 近所の人
- ④ 地域の方々
- ⑤ 広域の地域
- ⑥ 社会全体
- ⑦ ネット社会

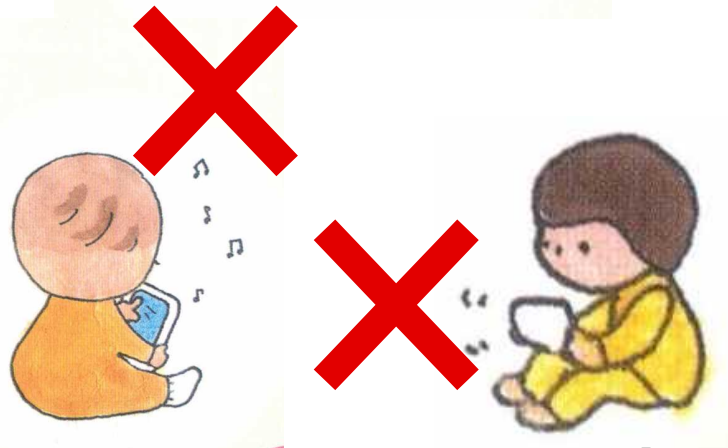
● コミュニケーション

- ① 直接非言語
- ② 直接対話
- ③ 文章の読み・書き
- ④ 大人の文書の読み・書き
- ⑤ 社会に通じる文章
- ⑥ ネット上の文章

あかちゃんを育てるのに必要なこと



必要なことをじゃましてしまうのは…



7

空想の中であそぶ（幼児後期～学童前期）

● 「あそび」で 育つ 「ちから」

- 見立て遊び
- 物語遊び
- ごっこ遊び



想像力
創造力
自己表現

- ティッシュを引張る
- 積み木を積む
- 穴にもものを通す

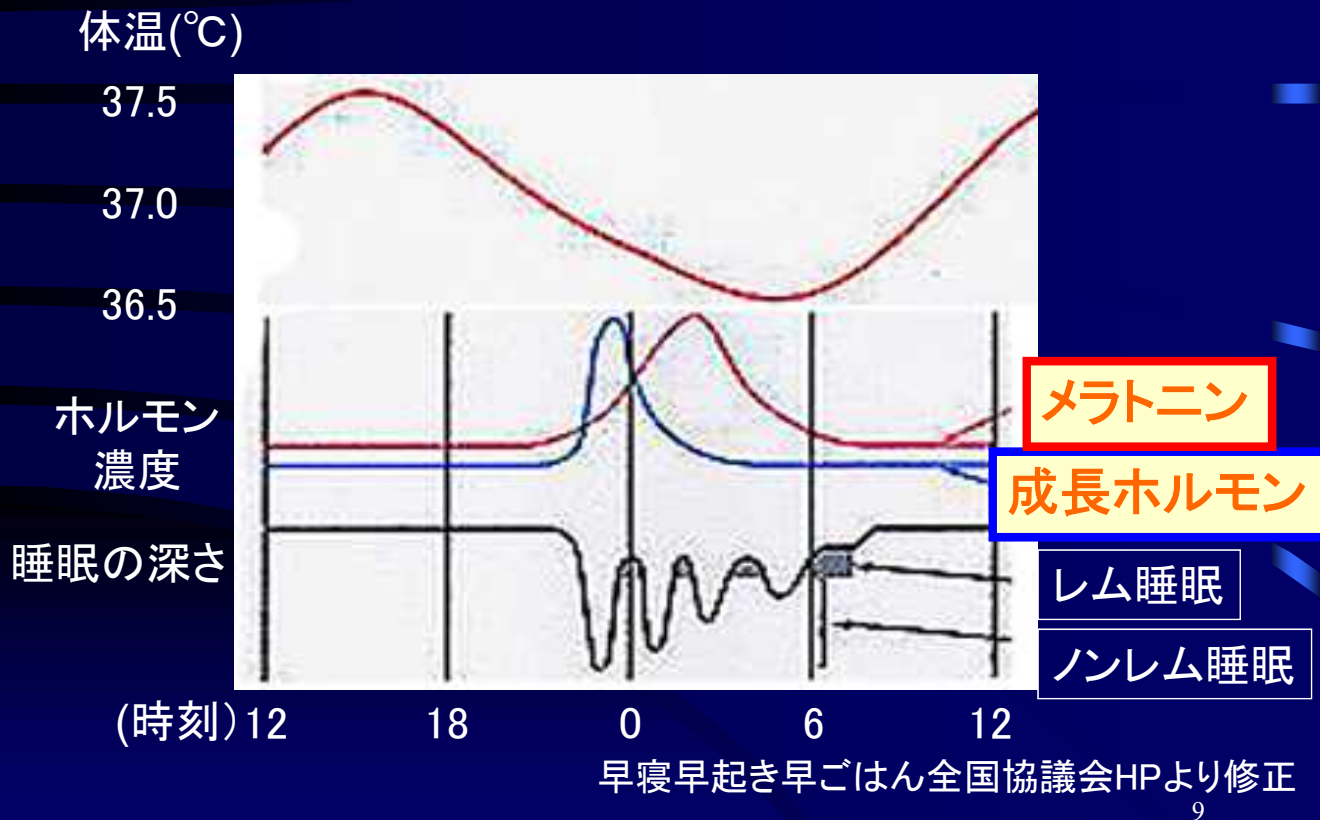


指先のコントロール
忍耐力
感情のコントロール

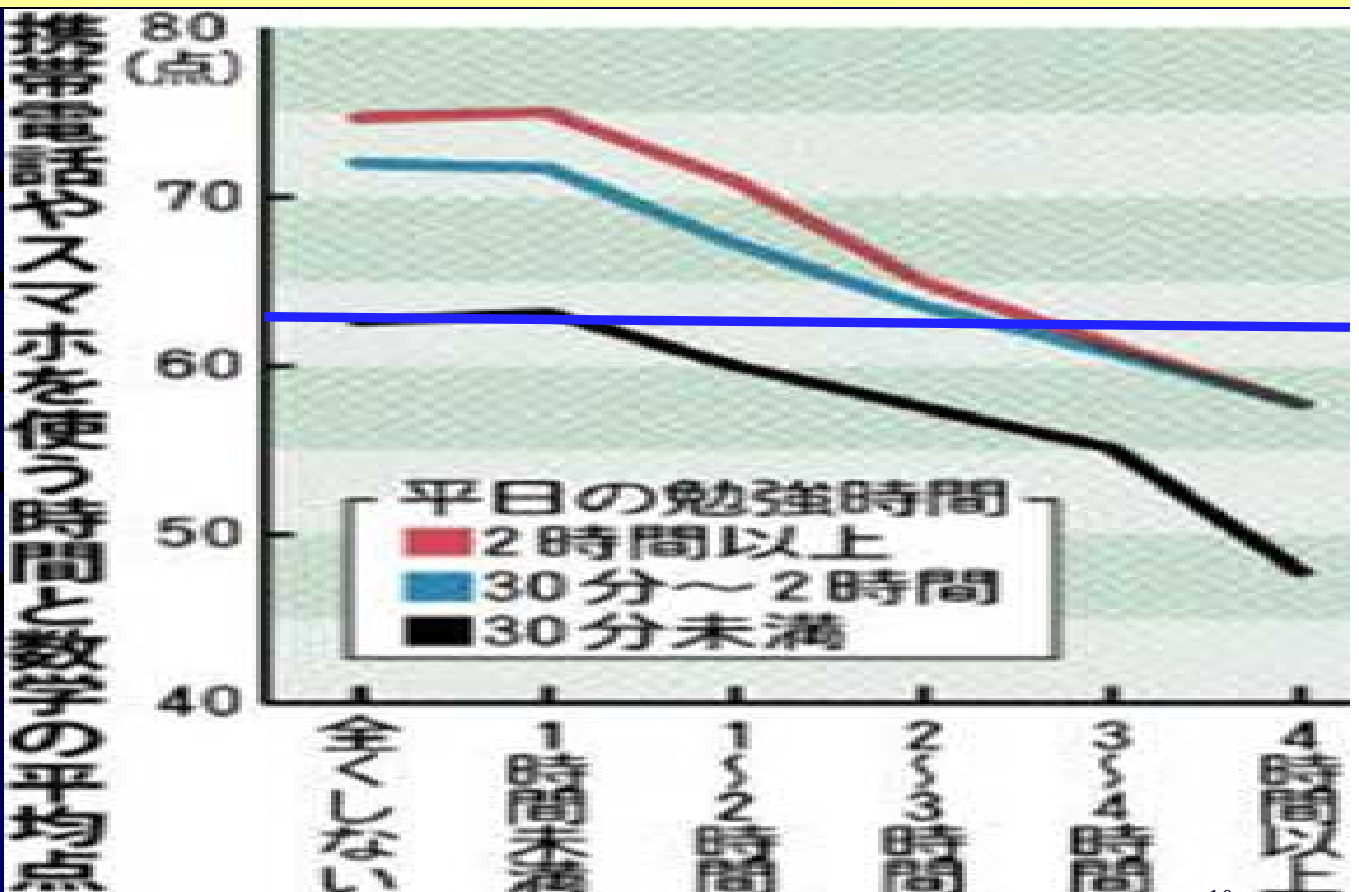
★空想の中で自発的に遊ぶことでこれらが育つ

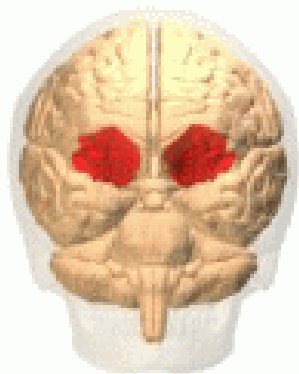
8

【睡眠、覚醒、体温、ホルモンのリズム】



スマホ時間と成績 PC・ゲームも同様





■ 脳の目の奥の部分や
左右をつなぐ部分が傷つく

(中国科学院 レイ・ハオ教授の研究より)

■ 脳部位の機能研究から

- ネットをやってないと不安
- 幻聴・幻覚
- 攻撃的な言動
- 極端な判断
- 人と普通に会話できない
- 人の気持ちがわからない
- 破滅的な言動

11

質問です

① ラインやメール、ゲームの誘いが来た時に「今は、ちょっとやりたくないなあ」と思ったことのない人はいますか？

② そう思うのは、どういう時ですか？

③ どんなルールがあれば、自分も他の人も気持ちよく使えるだろう？

12

保護者・子ども・学校関係者・支援者等と接してみても感じること(成果・課題)

- 学校関係者と保護者(地域の人)の危機感に違い
- スマホ・ネットのリスクを「子どもの育ちに大切なこと」を軸に伝える
- 保護者「初めて聞きました」「聞いて良かった！」
- 行政や学校が継続して取り組むことで、大きな成果がある
- 立場の違う人が連携することの意義
- ゲーム・スマホについては、伝える側の学びが不可欠